

第 5 回「原子力の業務運営に係る点検・助言委員会」議事概要

- 1 日 時 平成 25 年 11 月 5 日（火） 13:15～16:30
2 場 所 九州電力(株) 本店 会議室
3 出席者 野口 委員長、石窪 委員、出光 委員、大野 委員、松田 委員
(社内委員) 吉迫 副社長、平野 経営管理本部長

4 議事概要

(1) 前回委員会以降の状況報告（資料 1）

- 最近の原子力に係る動向について説明した。

(2) これまでの委員会活動の総括について（資料 2）

- これまでの活動を振り返り、第 2 回～第 4 回委員会における提言及び現在の取組み状況について説明した。

〔主な意見等〕

- ・ フェイスブックを活用すれば、より多くの人に伝えることができるという気がする。関西電力は精力的にやっており、評判が良いと聞いているので、九電でも考えてはどうか。
- ・ SNSを活用するほか、スポークスマンの話もあったが、専門性を持った者が記者と関係構築をしていくと良いのではないかと思う。
- ・ 情報発信に際しては、テクニカルに対応しようとするといけない。事象の本質を認識し、真摯に対応することが望ましい。また、表現、話し方等も工夫をすることが大切である。
- ・ 九電の取組みを地域の皆さまに直接伝えるだけではなく、多くの方に取組みを知ってもらうことも大事ではないか。そういう意味では、九電の取組みに対し、専門家・有識者がどう考えているかを情報発信して頂き、市民の方が多様な視点で活動を評価できる状況をつくるという方法もあるのではないか。

(3) 原子力の業務運営に係る取組み（資料 3－1、資料 3－2）

- 原子力の業務運営に関し、原子力の安全性（新規制基準への適合性審査状況）、及び社会とのコミュニケーション（原子力に関する理解活動の取組み）について説明した。

① 川内原子力発電所 1、2 号機、玄海原子力発電所 3、4 号機の新規制基準への適合性審査状況

〔主な意見等〕

- ・ 規制委員会の要求に的確に対応していると評価する。今後は、事故発生時における多様な状況、困難な状況を想定し、事故収束のみならず、事故が収束できない場合に防災において必要となる情報を、継続的に提供していくことを確実に実施できるように努力を継続することが重要である。
- ・ 安全性を伝えるソフト面の対策では、論理的な話だけではなく、自らの体験から得た分かりやすい事例等も含めて説明することで、聞き手の安心感が増すことがある。

② 原子力に関する理解活動の取組みについて

〔主な意見等〕

- ・ 情報公開及びコミュニケーションの体制作りは進歩していると評価。
- ・ コミュニケーションの仕組みはあるが、今後は、目標値の設定及び結果の定量化と、それに対する評価が求められる。
- ・ 広報、コミュニケーションに関しては、”How to ”（広報、コミュニケーションの方法）の問題と、「経営と広報の連携」の問題があると思う。
- ・ 安定供給は安全を前提にしていることをしっかり理解してもらうことが大事。また、原子力に対する不安の中身を分析して、相互理解を深めることが重要。
- ・ 最近のパワーポイントなどを使った説明はスマートだが、「伝えたい」という思いをあまり感じず、かえって伝わらないこともある。新しい手法を使わなくても、伝え方一つで伝わり方が変わってくる。また、真摯に伝える気持ちは同じでも、説明者の人柄・話し方などで差が出てくる。また、（パワーポイントなどは）情報量が多いが、どこをそぎ落とすかなど、そこに受け手とのギャップがある場合もある。
- ・ 原子力に係る政策的な課題については、九電のフィロソフィー（経営哲学・方針）を問われている。例えば、九州の電源のベストミックスを考える上で、原子力の割合をどう考えるかなど、会社のフィロソフィーとして伝える必要があるのではないか。
- ・ 市民の方に原子力の安全に関しての情報に興味を持っていただくためには、科学技術やエネルギーという基本的な事象に対して興味を持っていただくことも検討する必要がある。
- ・ ホームページはどこが更新されたかわからないこともあるが、SNS（例：フェイスブックなど）を使えば、変更点が明確になり、かつ、双方向の対話も可能になる。フェイスブックからホームページへの誘導や、ホームページとの使い分けについて検討したらどうか。
- ・ 社会の関心は安全対策から放射性廃棄物問題に移っている。今すぐという話

ではないが、広報の仕方として潮目が変わってきていると感じる。

③ その他

- ・ 九電の活動を改善していくためには、部署ごとや機能ごとの点検だけではなく、全社横断的な活動評価を継続することが重要である。

(4) 議論総括

- 各委員からの意見等について、内容や発言の意図等を確認し議論の総括を行った。
- 後日、議論総括を基に、提言の取り纏め案について各委員に照会し、了解を得たうえで委員会としての「助言」、「意見」を決定する。(後日、別紙の通り取り纏め)

(5) 次回委員会

- 第6回委員会は、平成26年3月頃の開催予定とし、議題については、これまでの委員会活動の中間取り纏めを予定。

以 上

〔委員会の様子〕



	点 検 ・ 評 価	助 言	意 見
活動総括	これまでの委員会の助言・意見に対して、活動改善に反映しようという姿勢は評価できる。本委員会での検討結果をさらに有効に活用していただく為には、高い改善目標を持ち、常にまだ十分でない機能に着目し改善をしていくという意欲を持続けることが重要である。		- 更なる改善のために、有効だと考える事項を以下に記す。 - Ｓ Ｎ Ｓ（フェイスブックなど）を用いた情報発信も有効ではないか。 - 専門性を持った社員がコミュニケーターとして記者との関係を構築し、専門的な内容について伝えていくことも良い。 - 情報発信に際しては、事象の本質を認識し真摯に対応することが望ましい。 - 情報発信における表現、話し方等も工夫をすることが大切である。 - 九電の取組みに対し、専門家・有識者がどう考えているかを情報発信して頂き、市民の方が多様な視点で活動を評価できる状況をつくるという方法もあるのではないか。
安全性	規制委員会の要求に的確に対応していると評価できる。	事故発生時における多様な状況を想定するとともに、①可及的速やかに事故を収束すること、②市民の安全確保に必要な情報を提供すること、の 2 つを同時並行で実施することは重要であり、このことを確実に実施できる体制を堅持するために実施すべきことを常に考え、改善を継続されたい。	安全性に関しては、論理的な話だけではなく、自らの体験から得た分かり易い事例等も含めて説明することで、聞き手は身近に感じ、安心感に繋がっていく。
コミュニケーション	情報公開及びコミュニケーションの体制に関して、一定の評価ができる。今後は、目標設定及び結果（効果）の定量的把握と、それに對する評価の在り方を検討されたい。	九電が目指している安定供給は、安全を前提にしていることをしっかり理解してもらうように努めることが大事である。	- 一方向の情報提供だけでなく、原子力に対する不安の中身を分析して相互理解をさらに深め、事業者とお客さまのギャップを埋めるように心がけて欲しい。 - 広報、コミュニケーションに関しては、広報部門による”How to”（広報、コミュニケーションの方法）の改善を行う事と共に、「経営方針」と「広報方針」を連携し、広報・コミュニケーションで把握した市民の不安や意見を経営に的確に反映することが重要である。 - 既存の資料も、伝え方一つで伝わり方が変わってくる。また、真摯に伝える気持ちは同じでも、伝わり方は、説明者の人柄・話し方などで差が出てくる。 - 原子力に係る政策的な課題の解決は、九電の経営哲学・方針と連動したものであるはずであり、対策の前提となっている基本的な考え方も合わせ説明することが重要である。 - ホームページでは新着情報が分かり辛いのが、Ｓ Ｎ Ｓを活用すれば、変更点が明確になり、かつ双方向の対話が可能となるため、ホームページによる情報発信との使い分けの可能性も検討されたい。例えば、フェイスブックなどの実名主義のＳ Ｎ Ｓは信頼性が高い。 - 社会の関心は安全対策だけではなく放射性廃棄物問題（最終処分等）にも広がっている。今後も、社会の関心の移り変わり（潮目）を捉えたコミュニケーション活動を心がけてほしい。
その他			九電の活動を改善していくためには、部署や機能ごとの点検だけではなく、全社横断的な活動評価を継続することが重要である。